

つのぶえ保育園の子ども達の印象について 小学校の先生等から 言われることの
一つに「お話を大変よく聞きますね」と 集中して聞くその姿勢に驚かれ、感心されて
恐縮してしまうほど 褒めてくださいます。一般的に どの子どもも 絵本や紙芝居は
もちろん、お話を聞くことは大好きだと思います。つのぶえの子ども達は その他に
日々の生活の“礼拝”の時間の中で、天を仰ぎ 心のまなざしを 神様へ静かに向ける
その環境が整えられ、自然なかたちで“聴く心”が育まれていることが 大きな背景に
あることを思います。中でも 毎週金曜日、幼児クラスを中心に2階で行われている
全体礼拝において語られているメッセージが、子ども達は皆 ほんとうに 大好きです。
『かみさまのおはなし』と呼んで、その時をいつも とても楽しみに心待ちしています。
内容は 旧・新約聖書に記されている 実際の出来事です。天地創造の『創世記』から
順々に、子ども達が理解しやすいように要約し、出来る限り丁寧な描写で 細やかな
表現に努めながら語っていますが、約30分、時には それ以上の長い時間を要しても
私の つたない語りにもかかわらず、興味深く耳を傾け、瞳をキラキラと輝かせながら
何千年以上も昔へ タイムスリップしています。聖書の記述は、すぐに理解し難いと思
われるような 科学や人知を超えた表現や 独特の世界観がありますが、子ども達は
毎回 ほんとうに夢中で聞き入っています。聞き終えた後の満足そうな表情や 何度も
繰り返し聞いたがる様子に、他のストーリーとは異なる 不思議な魅力を感じている
のだと思わされますが、聖書の出来事は 幼い心の中で どんな風に響いているのかと
考えてみた時に、神様からのメッセージとは 人の心や 命の本質へと迫るものであり
だからこそ、頭（知識や 理屈）でとらえ、つい 根拠や証を求めてしまう大人よりも
“心で聴く”子ども達の方が、そのままを ストン！と受け入れられるのだと思います。
また、神様にとっての人間は、子どもも大人も変わらない、同じ価値、等しい存在で
あることにも 改めて気づかされます。毎週の礼拝の中の 聖書を通して 子ども達は
ある時は 神様の視点から 世界を眺め、ある時は 当時の人々それぞれの姿に 自身を
重ね、笑ったり泣いたり悩んだり悔いたり 心の葛藤を繰り返し、自らに内在している
弱さや頑なさ、醜さと向き合い、この世の誰もが持つ心の闇であることに気づかされ
それでも 私たち人間を赦し 守ってくださる神様の愛に 安らぎと確信を覚えている
ことを感じます。だから きっと 皆は「かみさまのおはなし」が大好きなのでしょう。
子ども達に語る私自身も 自らの声を 耳にしながら「生きるとは何か、その命の源が
どこから来ているのか、すべての原点である わたしに立ち返りなさい」と 神様から
生きとし生けるものとして 人の在るべき姿を 静かに問われながら、語る私も また
子ども達と同じ聴く者であることを思い 素直でありたいと祈らずにはられません。

今、世界の平和が 脅かされています。美しい自然が壊され、明るい光が 暗い闇に
変わりつつあります。人々の心は 渇き、憎しみや争いで 世の中は荒みきっています。

「人は、人を愛するために生まれてきたのであって、戦争をするためではない。」
これは、作家 三浦綾子さんの 著書の中からの言葉ですが、私たち ひとりひとりが
今こそ平和のために この想いを厚い祈りに変えていかなければならないと思います。
遙か昔の聖書の出来事、イエス・キリストの御言葉は 今を歩む私たちに 何のために
生かされているのかを 静かに語りかけています。子ども達のまっすぐな まなざしを
見つめながら、この笑顔や未来が奪われることを大人達は決して起こしてはならない
と心に強く誓い、切に祈る毎日です。私たち大人が 子ども達のように 心の耳を傾け
互いに愛し合い 分かち合えますように 世界中の人々、そして各国のリーダーが共に
命の原点に立ち返り、正しい選択と判断ができますよう 神様の平安と 戒めと導きを
心からお祈りします。「平和を つくる者は幸いです。（マタイ5:9）」（石田 記）